いつもそばにカメラがあった 展

（1）趣　旨

カメラはかつて、高度な技術や設備が必要だったため、ごく限られた人にしか手にすることができませんでした。それが時代とともに安価で簡単に操作できるものになり、多くの人が日常的に撮影を楽しむことができる身近な存在になりました。

2006(平成 18)年 10 月、日比野安和氏(古井町)より大衆向けカメラ 492 点をはじめ、フィルム、カメラケースなどを合計約 1000 点の寄贈を受けました。本展ではこれらのうち、今日のようにカメラが日用品になるまでの推移がわかるような、私たちの暮らしに溶け込んでいったカメラやフィルムなど約 250 点を展示しました。あわせて、市民のカメラライフを紹介する公募の「あなたのイチオシ写真」コーナーなど、カメラと暮らしをテーマに開催しました。

(2) 会　期　2006(平成 18)年 12 月 16 日(土)～2007(平成 19)年 1 月 28 日(日)＜29 日間＞

(3) 観覧料　無料

(4) 会　場　企画展示室／美術工芸展示室

(5) 関連事業

①ミュージアムトーク　いつもそばにカメラがあった　展　展示解説

《2006(平成 18)年 12 月 16 日(土)11：00～12：00・14：00～15：00／会場：企画展示室・美術工芸展示室／参加料：無料／解説：日比野安和氏、当館学芸員》

②ミュージアムイベント　ピンホールカメラづくり

カメラの原点ともいえるピンホールカメラを作って撮影し、作品を展示しました。

《2007(平成 19)年 1 月 14 日(日)10：00～15：00／会場：工芸室／参加料：1000 円／講師：安藤志郎氏(蜂屋小学校校長)、日比野安和氏》